



120th Anniversary  
 東京聖三一教会  
 Holy Trinity Church, Tokyo  
 120周年

# 聖鐘

日本聖公会東京聖三一教会

〒155-0032 東京都世田谷区代沢2-10-11  
 TEL 3421-3646 FAX 3414-9023  
 URL trinity.web.infoseek.co.jp

牧師 司祭 長谷川正昭

## 眼差しの力

司祭ヨナタン 長谷川正昭

繕り合わされた糸のような眼差しの力が人を変えてしまうということがあるように思います。

恋愛中の男女はこれに似た不可思議な情熱に突き動かされるのです。トリストアンとイゾルデ、ロミオとジュリエット等みな同じ眼差しの力に捉えられ出会いと悲劇的な別れのドラマを繰り返します。大勢の人ごみの中でもお互いをひきつけあう視線の力が二人の間に通い合っています。目と目の出合いとも言うべき眼差しの強さは繕り合わされ二本の糸となります。

芸術にもこのような力があるように思います。《よく見れば薔花咲く垣根かな》これは芭蕉の作品ですが、垣根越しに咲いている薔を見たという何げない経験をそのまま詠った俳句です。しかし、これは名句と言われています。どこにそんな力が潜んでいるのでしょうか。鈴木大拙はこの句を解説して《よく》という一語で、もはや芭蕉は外から

花をみているのではなく、薔と一体になっていると言っています。

これと同じようなことが宗教体験にも含まれています。ペテロと兄弟アンデレ、ヤコブとその兄弟ヨハネ、この二組の漁師はガリラヤ湖の畔でイエスによって「人をとる漁師にしよう」という呼びかけに答え、すぐに網を捨て、舟を捨て、父親まで残してイエスに従いました。その弟子たちの決断は立派です。しかし、聖書を読むと、弟子たちの決断よりもイエスが弟子たちを見た眼差しの力がまずあつたことがわかります。イエスに、ガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、二人の兄弟、ペトロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレが、湖で網を打っているのを御覧になった。また、すこし進んで、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、舟の中で網の手入れをしているのを御覧になると、彼らをお呼びになった。(マルコ福音書1章16-19)二組の兄弟に

対して、いずれもイエスがまず「御覧になった」という行為が先行してあつたことがわかります。このようなイエスの眼差しに捉えられて、弟子たちは一切を捨てるといふ決断にみちびかれるのです。イニシアチブとか主体というのは、こちら側にあるのではなく、あちら側にあります。これがすべての宗教体験の核となるものです。

彼ら弟子たちが復活のイエスに出会ったとき、「彼らの目がさえぎられて、イエスを認めることができな」ということが起こりました。

復活のキリストを見るためには、眼差しの力、見る力によって、もう一度見つめられるという認識の瞬間が来なければならなかったのです。

このような認識をもたらす力こそ聖霊の働きというのです。迫害者であつたタルソのサウロが使徒聖パウロに変えられたのはダマスコにいたアナニヤが彼にこう言った瞬間でした。「主イエスは、あなたが再び見えるようになるため、そして聖霊に満たされるために、私をここにお遣わしになったのです。」

(使徒言行録9:17)

### 新年度宣教方針、予算案などを承認 Ⅱ 08年度受精三者総会 Ⅱ

08年度受餐者総会(議長・長谷川正昭司祭)は、2月10日の主日礼拝後引き続き73人(委任状85人)が出席して開かれ、主題「神の家族としての成長」標語「神の国をめざす旅人となる」とする宣教・司牧方針、07年度決算案、総額2700万円に上る08年度予算案などを全会一致で承認、可決し、新年度をスタートした。

08年度受餐者総会(議長・長谷川正昭司祭)は、2月10日の主日礼拝後引き続き73人(委任状85人)が出席して開かれ、主題「神の家族としての成長」標語「神の国をめざす旅人となる」とする宣教・司牧方針、07年度決算案、総額2700万円に上る08年度予算案などを全会一致で承認、可決し、新年度をスタートした。

◆総会冒頭、長谷川司祭は、「神の家族としての成長Ⅲ」を主題とした08年度宣教・司牧方針について次のように説明(要旨)した。  
「キリスト教は大トシネル時代に入り、先行き見えない神学不在時代と言える。しかし、キリスト教の実力、真価が今ほど問われる時代はないと思う。このような基本認識の基に、今年度は「神の国をめざす旅人となる」を標語に掲げた。「キリストは神の身分でありながら、人間の姿で現れ、自分を無にして僕の身分となり、へりくだって十字架

の死に至るまで従順だった」(聖パウロのキリスト賛歌)このキリストに従う私たちも、自分を空しくして与えられた使命を果たすことである。私たちは日常的な安逸を超えて、行き先知らずに出発したアブラハムに学ばなければならぬ。

の死に至るまで従順だった」(聖パウロのキリスト賛歌)このキリストに従う私たちも、自分を空しくして与えられた使命を果たすことである。私たちは日常的な安逸を超えて、行き先知らずに出発したアブラハムに学ばなければならぬ。

「神の国」をめざす私たちの具体的な営みとしては、今年、教会創立120周年記念行事として、聖霊降臨日の記念礼拝、7月には日野原重明先生の講演会開催を予定している。また10人規模構成の宣教委員会(仮称)を設置、年5、6回会合して宣教活動の具体化、中長期的な宣教ビジョンを明確化していきたい。120周年から125周年までを宣教伝道の5年間と位置付けた。

「昨年年度実施したいいわゆる「言いつけ」懇談会」は、現在の三教会が抱える課題を如実に示すものであった。今後機会があれば試みたい。「宣教ビジョ

「教会は「神の国」そのものではないが、「神の国」の影を宿した所である。聖餐式はそのことを最もよく示したものである。教会は最も弱い者、傷付いた者、苦しんでいる者を豊に受け入れて、共に神の国の宴にあずかる所という認識のもとに聖餐式を捧げたい。

◆07年度収支決算「55万円の赤字計上」  
支出額2506万円、収入額2561万円、差し引き55万円の赤字計上となった。この結果、05年時点の約470万円の繰越赤字も、3年連続の赤字計上により73万円まで縮小した。  
黒字計上の主な理由は、献金総額が予算額比60万円上回ったこと。これは感謝・記念献金が大幅に増加したものである。また宣教関連予算にかなり不用額が出たことも一因。しかし、月約献金実績は1092万円と予算額を8万円下回った。同献金はこれで9年連続減少となり、先行き懸念される。

◆08年度収支予算「当初から赤字予算編成」  
支出予算額2749万円に  
対し収入見込み額2613万円を計上、収支136万円の赤字額を見込む  
予算編成となった。この主要理由は教  
区分担金が前年比131万円増の15  
02万円となったため。教区分担金の  
増加はやむを得ない措置とはいえ、こ  
れによつて教会財政の逼迫傾向は今後  
避けられない見通し。教会財務担当者  
は「仮に教会員1人当たり月約献金額  
1000円負担していただけるなら年  
間270万円に達し、赤字構造は解消  
するのだが」と願っている。

08年度予算の主な支出項目は次の通り (単位千円)

|                 |       |
|-----------------|-------|
| ・祭壇費            | 381   |
| ・宣教費            | 1229  |
| ・うち韓国、比国姉妹教会関係費 | 555   |
| ・日曜学校費          | 235   |
| ・印刷図書費          | 300   |
| ・大修繕費           | 600   |
| ・受洗盤、聖書台購入費     | 1000  |
| ・教区分担金          | 15021 |

◆08年度教会委員 (1年委員)

|               |  |
|---------------|--|
| ・村上道夫 (礼拝担当)  |  |
| ・森田信也 (総務メンテ) |  |
| ・後藤晴美 (総務)    |  |
| ・加藤 望 (行事)    |  |
| ・高橋 牧 (行事)    |  |
| ・田島昌子 (教育)    |  |

川村啓三 (会計)  
八幡道子 (教育)  
〔2年委員〕

五十嵐美奈(教育)  
江川素子 (総務)  
後藤 務 (会計)

砂田郁郎 (礼拝・山手G)  
千村雅信 (総務メンテ)  
中野 誠 (会計)

名倉裕子 (礼拝)  
古川 薫 (行事)

◆08年度教区信徒代議員  
後藤 務・村上道夫  
森田信也

◆事務スタッフ  
菊池英男・名倉 徹  
西澤功宰・西依 彩

【総会資料から】  
\*受聖餐者数  
07年 223人  
06年 229  
05年 259  
04年 263  
03年 9273 83

\*礼拝出席平均 \*陪餐平均  
07年 90人 81人  
06年  
05年 100 93  
04年 105 93  
03年 117 100

(総会記事文責松田義夫)

「ただ感謝のみ  
—司祭に按手されて—」

須賀義和

1月26日(土)に聖アンデレ主教座聖堂に於いて聖職按手式が執り行われ、司祭に叙任されました。司祭按手の際には主教練はじめ先輩の司祭の方々から頭に手を置かれるのですが、その重さはまさにこれからの勤めの重さを象徴するくらい重いものでありました。(腰にきました。)

私は聖職候補生から執事、司祭に至る間を東京聖三教会で過ごさせていただいたのですが、その期間はいわば鍛錬の日々でありました。三教会に始めて訪れたのは2004年4月ですが、4年前になります。そのときは聖職候補生でありながら牧師館に住んでいたのですが、皆様からいただいたやさしさと厳しさが聖職按手までの日々を作り上げてきたのだと思います。

当日は、ケーキの準備や聖歌隊として御奉仕いただくのみならず、按手の証人として式に参列していただき、共に喜んでくださる方がこんなに多いことに自分はとても幸せな人間なのだあらためて感じています。



聖職按手前のリトリートで指導者である北関東教区の広田主教様の「聖職は福音を伝えるために神に捕らえられた器であり、神の前に会衆を代表して立つ使命を与えられたものである。神の民を養い、整えることをしなければならぬ」という言葉を思い出します。自分の榮譽ではなくただ神様の栄光と同時に神様を求め人々への養いを思いながら歩んで行かねばならないのだと思います。自分らしいゆつくりとした歩みになると思いますが、どうぞやさしく、しかし厳しい目で、すなわち愛をもつて祈り見守っていただければと思います。どうもありがとうございました。

当日は聖歌隊やケーキの準備などさまざまな場面で御奉仕下さり本当にありがとうございました。

【新聞からの話題】

◆日本社会ではキリスト教は少数派だが、クリスマスには国民の大多数がにわかクリスマスチャンになるという奇妙な社会現象が生まれる。最近それと同じような現象が目につくようになった。結婚式専用の豪華なキリスト教会風建物が全国的に増えていることだ。リクルート社の「ゼクシイ結婚トレンド調査」によると、日本人の圧倒的人気の結婚式スタイルは「キリスト教式」で、07年は実に70%に達した。60年代に80%だった「神前式」は12%と少数派だ。この風潮に目を付けたのはブライダル業者。結婚式専用のキリスト教会風建物を建て始めた。その豪華さは半端でない。例えば愛知県豊橋市にある結婚式専用の教会風建物は、天井の高さ27m、パーシロード30m、1500人収容。ゴシック様式のドイツのケルン大聖堂を模したという。牧師を「リス」して結婚式を挙げるだけの「商業主義教会」である。この種の建物は山口、名古屋、東京、大阪など各地に増えている。中には日本人聖歌隊による賛美歌、ゴスペルの歌声が会場に広がる。式場を写真付きで紹介している30万部発行の結婚情報誌の影響も見逃せない。「読者にとって憧れの挙式が出来る結婚式専用教会はこれからも増える」と編集部。さてこの社会現象を本物のキリスト教会は、他人ごととして手をこまねいていいものなのか。

(朝日新聞掲載記事参考)

聖鐘編集部は、このところ大きな問題となってきた教会財政について前会計委員の名倉敏さんに依頼して、わかり易いQ&A方式の解説を書いていただきました。財政問題理解の一助としてお読みください。

Q・受聖餐者総会で教会の収支状況が厳しいという説明がありましたが、一体、教会はどんな費用がかかるのですか。

A・二ヶ月当たりにして説明しましょう。一番大きいのが教区費分担金で35万円、次いで水道光熱費、事務機器料など三項目だけで140万円もかかります。これに祭壇費、宣教費、日曜学校費、通信費などを含めると教会を維持するだけで毎月170万円の費用がかかるのです。

このほかに大修繕費や海外教会支援交流費用なども別に積立しておかなければなりません。

Q・教区費分担金とはどういうものですか。

A・東京教区へ毎月送金する資金で、80%は教区の聖職の給与、20%は教区の維持管理費に充てられます。教区も懸命に経費節減に取り組んでいます。今年に聖職が四人

増えたため、各教会の分担金負担が増えました。

Q・月間170万円も費用がかかるということですが、全部信徒の献金だけで賄えるのですか。

A・残念ながらとても足りません。2008年度の予算で見ると、は年間200万円ぐらい不足します。

年間200万円(月間17万円)ほど不足します。これをバザー収入の一部とミニバザーなどでカバーする予定ですが、それでも分担金アップの130万円は賄えないため、やむをえず赤字予算となりました。

Q・一人当たり直して説明してくださいませんか。

A・人当たりと言ってもいろいろな数字がありますが、ここでは現在受聖餐者数の230人を基準に見てみましょう。

経常支出(対外支援、大修繕費、積立金への振替支出などを除く)日常的な支出で見ると一人月間7650円の費用がかかっています。これに対する一人当たりの献金額は6900円(うち月約献金は3900円)ですから毎月一人につき750円ほど赤字になっているわけです。これを年間に直すと207万円の赤字ということにな

ります。

Q・このような状況は三教会だけですか。

A・何処も同じような状況と思いますが、一人当たりの献金額が他の教会に比べて少ないので他より一寸深刻かもしれません。

左記の東京教区のデータをご覧ください。三教会は信徒数、献金の絶対額などは35教会の中で5〜6番目に位置するのですが、一人当たり月約献金額では23番目、教区平均も下回っています。

| 順位        | 普通献金総額 |               | 順位        | 感謝記念献金 |           | 順位    | 教区分担金 |     |
|-----------|--------|---------------|-----------|--------|-----------|-------|-------|-----|
|           | 月平均    | うち月約献金<br>月平均 |           | 月平均    | 月平均       |       | 月平均   | 月平均 |
| 1         | 12,396 | 9,059         | 1         | 7,677  | 1         | 8,053 |       |     |
| 2         | 9,090  | 5,696         | 2         | 3,599  | 2         | 7,783 |       |     |
| 3         | 8,243  | 5,626         | 3         | 3,274  | 3         | 7,620 |       |     |
| 23<br>(三) | 5,411  | 3,834         | 23<br>(三) | 2,436  | 23<br>(三) | 4,745 |       |     |
| 35        | 3,510  | 2,592         | 35        | 179    | 35        | 3,069 |       |     |
| 平均        | 5,654  | 4,163         | 平均        | 1459   | 平均        | 4,931 |       |     |

Q・ところで赤字になるということとは将来どうなるのですか。

A・赤字になると預金がなくなっていくと思います。まだ自由に使える預金は900万円ほどありますから、今すぐどうということはありませんが、収入より支出が多いという教会の収支構造が変わるということは容易ではありません。信徒の数が減り、また信徒が高齢化している現在、献金の増加を大きく期待することは難しい状況です。一方、支出は物価が上昇し始めましたし消費税も一〜二年のうちには上がるでしょう。

今年の赤字見込みが136万円ですから、消費税でも上がれば200万円近い赤字が続くことを覚悟しなければなりません。900万円の預金でどれだけ耐えられるかということになります。

Q・お先真つ暗ではありませんか、私たちが今、何か出来ることはないのですか。

A・立場上は甘いことは言えないので厳しいお話をしましたが、まず何とか信徒を二人でも増やすこと、他教会より見劣りする月約献金にこ

配慮いただくことミニバザーなどで頑張っていたこと、他教会に比ベダントツに多い水道光熱費を節約することなどで乗り切つて行くことしかないのではないのでしょうかこの赤字構造は多分多くの教会に共通することだと思います。言い過ぎかもしれませんが、もう一教会で解決することは難しい時期に来ているのではないのでしょうか。

【追 悼】

ドルカス小林季子姉  
を偲んで

リベカ柏原眞澄

07年10月11日、98年の天寿を全うされ天国に旅立たれました。思えば教会ではいつも定位置に座り、牧師さんの説教を英語でメモしている姿がありました。そして礼拝後はすぐお帰りになるので、なんとなく近寄り難いオバアチャマという印象しかありませんでした。それが数年前に教会の敬老会の贈物を自宅にお届けしたことがきっかけで季子姉への印象は大きく変わりました。

よく手入れされた広い庭には四

季折々の草花が美しく咲き揃い、道行く人々の目を楽しませておりました。近所に住む甥や姪のお孫さんのために、野菜や果物を栽培してその成長を楽しみにしていた優しいオバアチャマであることを知りまし



庭は誰にでもいつも開放され、庭からこんにちはと声を掛けると、笑顔で出迎えてくださったことが昨日のように思い出されます。時には藤椅子に座り、英語の原書を手にしたままうつらうつらしている微笑ましい姿もありました。

仕事柄、英国が大好きだったようです。英国にはアパートの一室があることを写真を見せながら楽しく説明してくださいました。自宅の間には英国の友人、知人からのカードや絵葉書が壁いっぱい飾られ、

お茶を飲みながら数々の思い出話をしてくださいました。「来春にはまた行くつもりよ」と楽しそうに言つてくださいましたが、それが適えられず残念だつてことでしょう。

入院後、暫くして会話も出来なくなり、手足をさすりながら「小林さん」と呼び掛けると、「はい」と応えてくれたのが最期のお別れの言葉でした。

季子姉の生活姿勢はいつも自然体そのものでした。お見舞いに何うと「ベットが空いているのでいつでも使つてください」と気遣つてくださる優しい季子姉でした。そばにいると肩の力が抜けて、なんだか優しい自分に戻られるような気がしました。社会福祉のため、母校のため、そして教会のために浄財を惜しみなく捧げる信仰の人でした。「私たちは何一つ持たないでこの世に來たが、また何一つ持たないでこの世を去つて行く」との聖書の言葉を実践されて天国に召されました。魂の平安を心からお祈り致します。

苦しみの記憶を受け継ぐ



森田麻里子

1月31日から2月7日まで三男とミニオンからベルリンまで旅をしました。ベルリンのプレッツェンゼー記念館はナチスドイツに抵抗した方々が拷問・処刑された場所です。1933年から1945年まで2891人が処刑されました。最も多かつたのは1943年の1180人です。絞首刑の金具がそのまま残る部屋には花輪が置かれていました。呼吸するのも辛い場所ですが、地元の方が丁寧に資料を読んでいました。命を賭して抵抗された方々の魂のご平安を祈りました。

ベルリンの中心街には1943年の空襲で破壊されたままの姿で保存されている、カイザー・ウィルヘルム記念教会があります。写真など資料が公開されています。1953年の崩壊した教会の中の礼拝の写真には感動しました。大戦後も苦しい日々が続く、人々は励まされたとと思います。新しく建てられた教会が隣接していて、韓国の学生達が感心しながら、見学していました。偶然とはいえ韓国の方々と「苦しみの記憶を受け継ぐ場所」に共にあることに、深い思いを持ちました。

## 2008年度バザー

当日は好天に恵まりましたが来場者の数は若干減少気味でした。近隣からの献品も同じ傾向にあるので、次回はもっと広報を大事にしなければならぬという反省が寄せられました。

### ●総売り上げ

187万4626円

そのうち池ノ上商店街商業会バザーの収益は

10万480円

### ●経費

41万4642円

本部経費 19万4236円  
食堂経費 14万4752円

### ●純収益

145万9984円

このうち30%にあたる43万円を教会財政援助として教会会計に繰り入れ、また残りの103万円を対外支援として諸施設に献金しました。献金先は、アジア学院、日比懸け橋、きぼうの家、カパティラン、ぶどうの家、滝乃川学園、日本海外医療協会、アルディナウペボ、フィリピン中央教区などの従来の献金先に加え、07年度は生野センター、神戸学生センター、中越地震の被災者支援として献金させていただきました。詳しくは、総会資料P41の「協力

費」の項を参照してください。

2007年度バザー委員長東理夫

## バザーの日に思う

名倉裕子

10月28日、前日の嵐とはうって変わってバザー当日は清々しい晴天というお恵みをいただきました。どの売り場も活気に溢れ大成功のうちに一日を終えることができました。

今回バザー委員として初めて本部の仕事に携わり、気付いたこと、気付かされたことが数多くありました。チラシを配り歩くことの大変さ、また教会の敷地を無駄なく利用するため何日も草むしりや落ち葉掃除をしなければならぬ事など、挙げればキリがありませんが、何よりもバザーは個々の力が集まり協力し合って初めて成り立つものであるということに沁みて感じました。当たり前のことのようにですが、正直、当日まではいろいろと調整をしている時、皆さんおひとりおひとりの顔を思い浮かべるといよりは各売り場単位でしか捉えていなかったように思います。打ち上げで胸に熱いものがこみ上げてきたのは、無事終わったことの安堵感からなのは勿論ですが、協力し合うこと、皆が共に支え合えることの喜び

と感謝からでした。まさにあの日、私たちの働きの中には「祝福」があつたのではないのでしょうか。

この先バザー収益は減っていくかもしれませんが、年に一度の「お祭り」ではなく、互いに支え合うことの確認の時としていつまでも続けていけたらと思います。



## クリスマスコンサート

高橋 牧

今年のクリスマスコンサートは初めての試みとして、写真家であり、長坂聖マリヤ教会の牧師である松村誠司

祭の「自然命を見つめて」というフォトエッセイをお借りし、聖堂とホール、受付に展示をしました。

コンサートは長谷川司祭のメッセージで始まり、前半は平和への願いを込めた曲、後半はクリスマスキャロルを中心にした構成となりました。今回はいつも以上にたくさんの方々が参加して、ハーブをバックにしたエッセイの朗読も取り上げました。音楽、写真、言葉を通じて平和への想いを深められたひとときでした。

コンサート後はホールでティータム・ミニバザーも開かれ樂興の後を演奏者、来場者ともども楽しくゆったりとした時間を過ごしました。バザーに献品をしてくださった近隣の方々へのチラシ郵送が功を奏してか、信徒以外の方々の来場が目立ったのは嬉しいことでした。

フォトエッセイは、当初はコンサート当日のみの展示の予定でしたが「ぜひもう少し」との声が多く、5日目のクリスマス礼拝まで展示しました。

松村司祭いわく「僕の作品が礼拝堂に飾られ、ミサにまで与かった?のは僕の作品にとつて初めてのこと。教会で出来たのは大きな意義でした。あえて業界用語を用いずに神の愛を伝える試みが受け止めてもらえ、共感していただけたことを心から嬉しく思います」とのこと。

## 【教会委員会議事録抜粋2007年~2008年1月】

## &lt;9月&gt;

- ・臨時受聖餐者総会の招集を決定。議案「教会委員選挙規則改定(案)承認の件」。
- ・事務スタッフの確認事項。「東京聖三一教会の決まりごと」と「管理責任者を決める必要がある事項」を一覧表にして記録する。礼拝関係書籍・式文関係:教会委員の礼拝担当と働きグループから担当者を任命する。教会施設に関する事項:教会委員総務担当と働きグループから任命する。
- ・ぶどうの木は、小学生用の机と椅子を購入。
- ・メンテナンス。祭壇横の大理石剥離について清水建設と協議。修理の見積りをとる。
- ・電話回線を光ファイバーにする。

## &lt;10月&gt;

- ・11月25日の「降臨節前主日」は「聖霊降臨後最終主日・キリストによる回復」に名称が変更された。
- ・教会委員選挙について。「教会委員選挙規則・臨時受聖餐者総会で可決」を受けて、選挙の諸日程を決めた。
- ・会計報告。予算請求は、11月25日提出締切。
- ・メンテナンス。聖壇と女性トイレの工事が終了した。ステンドグラスの照明工事、玄関外灯器具取替えを承認。
- ・防災。北沢消防署から防災関係の整備が必要であるとの指摘を受けた。
- ・メールボックス改良について。川村委員を中心にBSAを含めて検討する。

## &lt;11月&gt;

- ・教会バナーが古くなり、更新の要望があることから、創立記念日までに作成したい。
- ・バザー収益の配分について。98万円の配分を決定した。ミニバザー等の収益は教会会計に、商栄会バザーはバザー会計に含める。
- ・教会委員選挙。教会委員は11月18日までに40名の被選挙者候補の推薦書を提出する。
- ・ギデオン協会世田谷支部から礼拝への参加と募金の依頼。12月3日主日の実施を承認。
- ・消火器・非常点検。消防署の指摘に基づき業者の見積りを取り、実施することを承認。
- ・防災用備蓄水について。2008年7月までに入れ替えおよび保管場所について検討する。
- ・宣教委員会の設置について。120周年を契機に125周年

に向けて教会の将来計画取組みと並行して「宣教委員会」設置を承認。

## &lt;12月&gt;

- ・クリスマス礼拝と行事の諸日程を決めた。
- ・受聖餐者総会は、2月10日に開催する。
- ・教区コア(COA)の会の餅つき大会(2月11日)の会場に当教会の提供を、当教会からサポーターを参加させることで承認。
- ・家庭集会を12月13日に名倉邸で開催する。
- ・会計報告。バザー収益98万円を各奉献先へ献金した。教区分担金は増額され、今後3年毎年15,021,000円を担うことになった。
- ・コピー機とファックス機の更新。リコー製の購入を決めた。紙折り機も導入する。

## &lt;2008年1月&gt;

- ・2008年は創立120周年を迎える。聖霊降臨日に記念礼拝を、そして7月に日野原重明氏の講演会を開催する。
- ・120周年を機会に今後5年を宣教の期間と位置付け、宣教委員会(仮称)を設置する。委員は、教会委員「礼拝」「教育」「行事」担当者から各1名程度選出とし、村上道夫氏を世話人に、名倉裕子氏、八幡道子氏、古川薫氏が中心メンバーとなることで承認。
- ・新選挙方式になったので、1年委員は2007年教会委員7名にもう1名選出の必要があり、その1名選出は長谷川司祭に一任する。
- ・教区代議員選定。臨時総会承認のとおりの手順により、教会委員会での互選の結果、村上道夫氏、森田信也氏、後藤務氏、補欠に田島昌子氏が選出された。
- ・会計報告。2008年度予算書の確認を行った。教会員へ献金増額の呼びかけを行っていく。
- ・2008年、東京聖三一教会が山手グループ教会協議会の当番教会となった。
- ・「教会の決まりごと」および「文書等保存規定」について。「教会の決まりごと」:委員会決定事項の備忘録。「文書等保存規定」:文書のアーカイブスとして総会記録、委員会議事録等の保存は期限を設けない。過去の物は紙媒体を廃棄しないで保管する。

牧師動静

- |                                 |                          |
|---------------------------------|--------------------------|
| 11月1日(木)教区墓地礼拝(谷中)              | 13日(木)家庭集会(名倉宅)          |
| 2日(金) // (小平、多摩)                | 15日(土)予算委員会              |
| 4日(日)故和久井清次兄一周年記念式              | 20日(木)滝博邦、真理子夫妻堅信準備      |
| 8日(木)島田忠雄司祭見舞い(日扇会第一病院)         | 21日(金)島田忠雄司祭見舞い(日扇会第一病院) |
| 10日(土)オメガ・コース第9回                | 23日(日)主教巡回日、堅信式          |
| 12日(月)故小林季子姉埋葬式(柿生霊園)           | 24日(月)ナザレ修女会早朝聖餐式        |
| 17日(土)近藤良祐兄、松本亜紀姉結婚式リハーサル       | 27日(木)吉田英子姉見舞い(聖路加病院)    |
| 20日(火)東京教区聖職会(聖アンデレ主教座聖堂)       | 1月 1日(火)元旦礼拝             |
| 21日(水)山手グループ牧師会                 | 7日(月)森田信也兄見舞い(社会保険庁中央病院) |
| 23日(金)教区会                       | 10日(木)会計監査               |
| 26日(月)沖縄教区教役者黙想会(沖縄聖ジョージ修道院)    | 16日(水)山手グループ牧師会          |
| 27日(火) // (沖縄聖ジョージ修道院)          | 19日(土)礼拝勉強会、壮年会新年会       |
| 29日(木)アルテナ・ウヘボ(日聖婦感謝箱献金担当者との会合) | 25日(金)教区ナザレ黙想会           |
| 30日(金)ケビン・シーバー執事、大森明彦候補生、公開説教   | 26日(土)聖職按手式(須賀義和司祭按手)    |
| 12月1日(土)近藤良祐兄、松本亜紀姉結婚式(聖オルバン)   | 31日(木)島田忠雄司祭見舞い(三宿病院)    |
| オメガ・コース第10回                     | 2月 2日(土)高野弘一兄埋葬式         |
| 6日(木)鶴牧集会                       | 6日(水)大斎始日灰の祝別式           |
| 8日(土)礼拝勉強会                      | *定時のプログラム・礼拝などは外してあります。  |
| 11日(火)滝博邦、真理子夫妻堅信準備             |                          |

編集製作費、ゼロを目指す

『聖鐘』編集部のおささか自慢めいた話になるのをお許しください。というのには、以下は編集製作費が予算計上ゼロに限りなく近付きつつあるということをお願いしたいがための一文。

原則年4回発行の『聖鐘』は、年間製作経費が、例えば04年度35万円、05年度36万円(二回当たり10万円前後)と全体支出経費の中では結構、大きな比重を占めている。製作方法は05年度まで、業者に出稿して製作、印刷依頼していたのだが、06年度からパソコン編集処理という製作方法に全面的に切り替えた。この方法は聖鐘原稿はすべて教会のパソコンに入力し、編集、校正作業はすべて編集スタッフが行い、印刷だけを業者に依頼するというやり方。この結果、07年度製作費は7万円台に圧縮できる見込みだ。

さらに来年度は教会に新しく導入された印刷機を使って印刷をする予定なので、聖鐘製作は業者発注は無く、最終工程まですべて編集スタッフの手で行われるので、直接の製作コストは紙代だけという

| 礼拝集案内         |                  |
|---------------|------------------|
| 主日礼拝          | 日曜日 聖餐式 午前八時三十分  |
| 週日の礼拝         | 木曜日 聖餐式 午前十時三十分  |
| 教会暦の定める祝日     | 聖餐式 午前十時三十分      |
| ぶどうの木(こどもの礼拝) | 日曜日 午前九時三十分      |
| 集会            | 壮年会E.Lの会 毎月第一日曜日 |
|               | BSA例会 毎月第二日曜日    |
|               | HIGHH俱樂部 適宜      |
| 聖書を読む会        | 火曜日 午前十時三十分      |
| 聖書を読む会        | 火曜日 午後七時         |
| 聖書を読む会        | 第一第四金曜日 午後七時     |
| 代次こども文庫       | 第二水曜日 午後一時       |

勘定になる。こんなわけで厳しい教会財政の改善に少しは寄与できたと、大人気なく自慢の一つも言いたくなる心情をご理解いただければ幸甚。

それはさておきこの編集手法に意欲的に取り組んだのは、パソコン名手の藤松曜編集委員と、優れた才覚と実行力ある千村雅信編集長であることをご記憶いただきたい。(編集子)